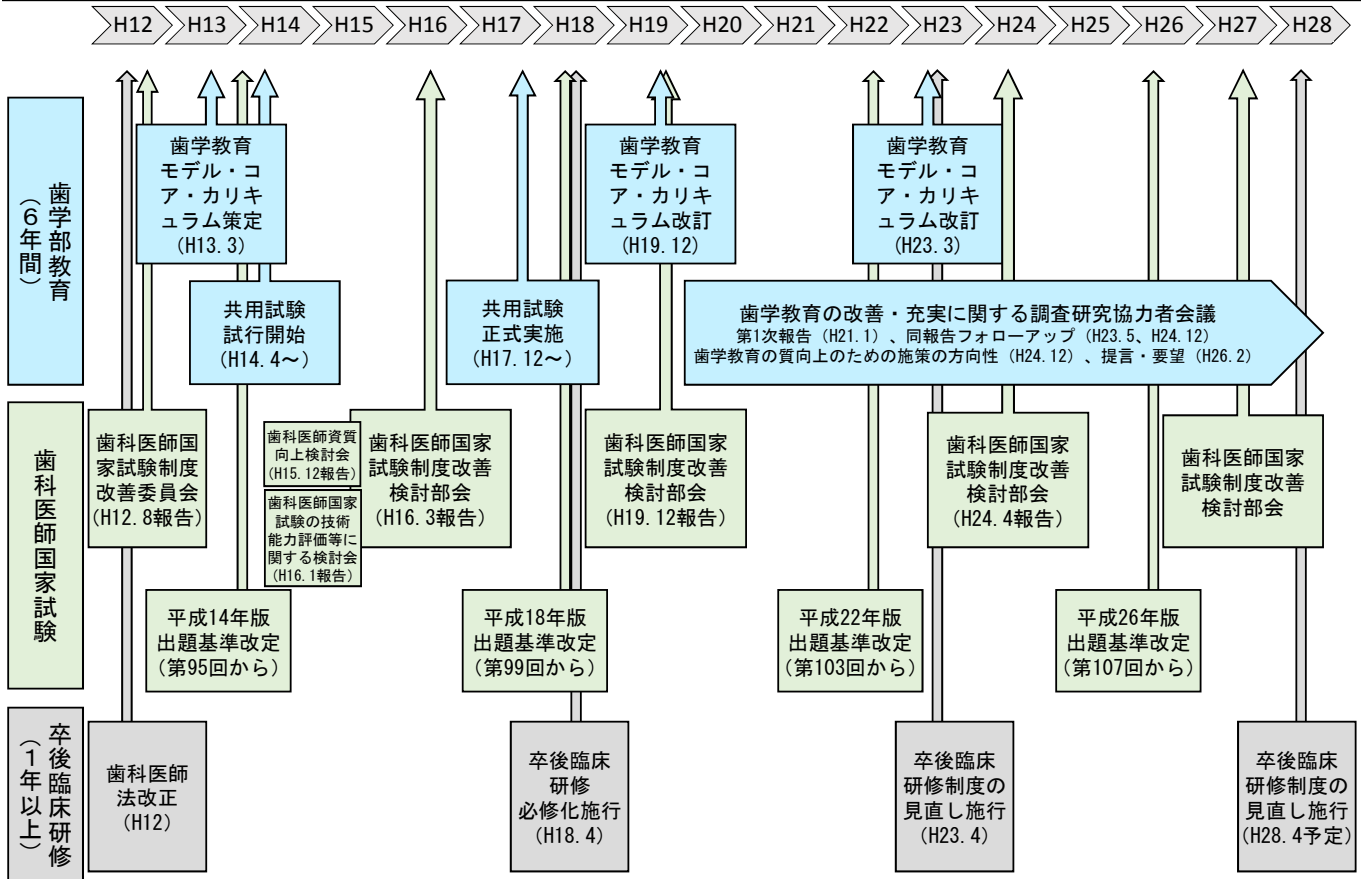


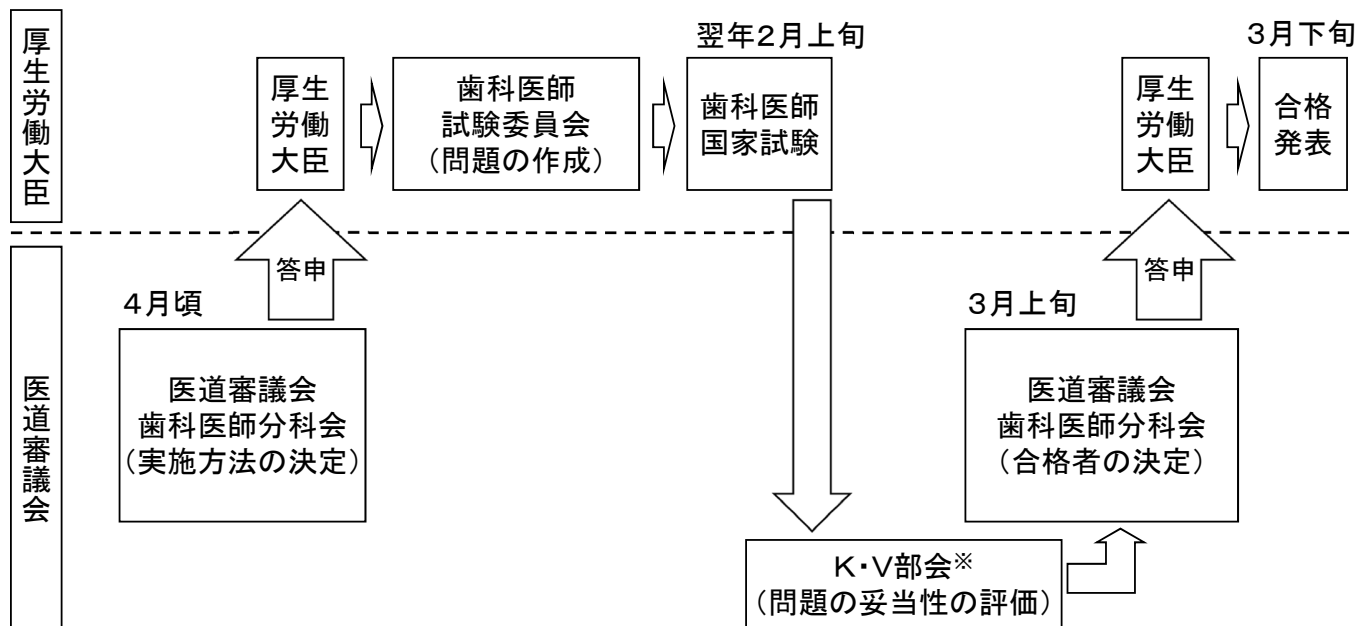
卒前・卒後の歯科医学教育を巡る近年の動き

平成28年3月18日



歯科医師国家試験の実施・見直しに関する大まかな流れ

おおむね4年に1度国家試験の実施方法を改善し、その後、おおむね4年に1度出題範囲(出題基準)の内容を改善を行っている。今年度、実施方法の改善については議論が行われている。



※K・V(Key Validation)部会: 医道審議会歯科医師分科会の下に設置されており、試験の実施結果を踏まえ、問題の妥当性を検討している。

## 平成26年版歯科医師国家試験出題基準(概要)

歯科医師国家試験は、歯科医師法第9条に基づいて、「临床上必要な歯科医学及び口く衛生に関して、歯科医師として具有すべき知識及び技能について」行われる。第9条にいう「知識と技能」とは、臨床研修歯科医師として歯科医療に第一歩を踏み出し、指導歯科医の下でその任務を果たすのに必要な基本的知識及び技能であるとする。

その内容を具体的な項目によって示したのが、歯科医師国家試験出題基準(ガイドライン)である。歯科医師国家試験の妥当な内容、範囲及びレベルを確保するため、歯科医師試験委員は、この基準を踏まえて出題する。ただし、出題内容に関する最終的な判断は、試験委員会が行うものとする。

### ブループリント(歯科医師国家試験設計表)

「必修の基本的事項」(約20%)	「歯科医学総論」(約30%)
1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム 約2%	総論Ⅰ 保健医療論 約12%
2 社会と歯科医療 約2%	総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 約9%
3 予防と健康管理・増進 約5%	総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 約5%
4 歯科医療の質と安全の確保 約7%	総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 約9%
5 診療記録と診療情報 約2%	総論Ⅴ 発生、成長、発達、加齢 約3%
6 人体の正常構造・機能 約14%	総論Ⅵ 病因、病態 約9%
7 人体の発生・成長・発達・加齢 約7%	総論Ⅶ 主要症候 約4%
8 医療面接 約4%	総論Ⅷ 診察 約7%
9 主要な症候 約10%	総論Ⅸ 検査 約16%
10 診察の基本 約4%	総論Ⅹ 治療 約13%
11 検査の基本 約10%	総論Ⅺ 歯科材料と歯科医療機器 約13%
12 臨床判断の基本 約2%	
13 初期救急 約1%	
14 主要な疾患と障害の病因・病態 約12%	
15 治療の基礎・基本手技 約12%	
16 チーム歯科医療 約2%	
17 一般教養的事項 約4%	

「歯科医学各論」(約50%)
各論Ⅰ 歯科疾患の予防・管理 約6%
各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 約19%
各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 約23%
各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 約23%
各論Ⅴ 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害 約23%
各論Ⅵ 高齢者の歯科診療 約6%

## 歯科医師国家試験制度改善の概要(出題数・出題内容・合格基準)

制度改善の項目	平成19年12月 (平成22年(第103回))	平成24年4月 (平成26年(第107回))	平成28年 (平成30年(第111回))
出題数 (必修問題)	365題を維持 (50題→総数の2割程度)	現行通り365題 (70題)	360題 (80題に増加)
出題内容 (全体)	口腔と全身との関わりや高齢者・全身疾患を有する者等への対応、歯科疾患の予防管理等についての内容を充実。社会保障制度等についても出題範囲に含める。出題基準の項目の包括化する。ブループリントをより詳細にする。基礎領域については臨床との関連性を踏まえた内容にする。	高齢者等への対応に関する出題、歯科疾患の予防管理に関する出題、社会保障制度に関する出題、口腔と全身疾患との関係に関する出題、救急災害時の歯科保健対策・法歯学に関する出題を充実。	将来を見据え、社会情勢の変化に合わせて、次の項目の充実を図る。 ・高齢化等による疾病構造の変化に伴う歯科治療の変化に関する内容 ・地域包括ケアシステムの推進や多職種連携等に関する内容 ・口腔機能の維持向上や摂食機能障害への歯科治療に関する内容 ・医療安全やショック時の対応、職業倫理等に関する内容
合格基準	必修問題	現行の基準を基本とし、絶対基準で評価すべき	絶対基準での評価を継続
	一般問題 臨床実地問題	新卒受験者の知識・臨床能力等の水準を基本としつつ、新卒受験者間でも知識・臨床能力に差があることに留意する。臨床実地問題はより配点に重みを置く。	受験者の質の変動に左右されず、歯科医師として具有すべき知識・技能を有している者を適切に評価すべき。
	禁忌肢問題	継続して採用 偶発的な要因で不合格とならないよう配慮	従来通り運用 偶発的な要因で不合格とならないよう配慮
	必要最低点		歯科医師国家試験の領域を構成するグループ別に必ず得点しなければならない最低点を設定すべき
			他の合格基準で歯科医師として必要な知識及び技能については確保されており、今後は運用を行わない。

## 試験の時間割と解答時間

・幅の広い出題を可能にするため、午前の冊子、午後の冊子ともに必修問題・一般問題・臨床実地問題を均等に出題させる。

	現在	➔	見直し案
	出題数		出題数
必修問題	70問		80問
一般問題	190問		180問
臨床実地問題	105問		100問
合計	365問		360問

試験日	出題区分と試験時間		合計時間
	A	B	
1日目	(135分)	(135分)	4時間30分
2日目	C (135分)	D (135分)	4時間30分
出題内容 問題数	必修問題・一般問題：合計65問 (1問当たり約65秒) 臨床実地問題：25問 (1問当たり約2分40秒)		

5

## 歯科医師国家試験における問題の形式

### <Aタイプ>

5つの選択肢の中から1つの正解を選ぶ形式

### <X2、X3、X4タイプ>

5つの選択肢の中から2～4つの正解を選ぶ形式

### <XXタイプ>

5つの選択肢の中から複数の正解を選ぶ形式

### <LAタイプ>

6～10の選択肢から1つの正解肢を選ぶ形式

### <計算問題>

医薬品の処方（用法・用量等）や検査値等、数値を計算により解答させる形式

### <順番問題>

治療手順等を正しい順に解答させる形式

6

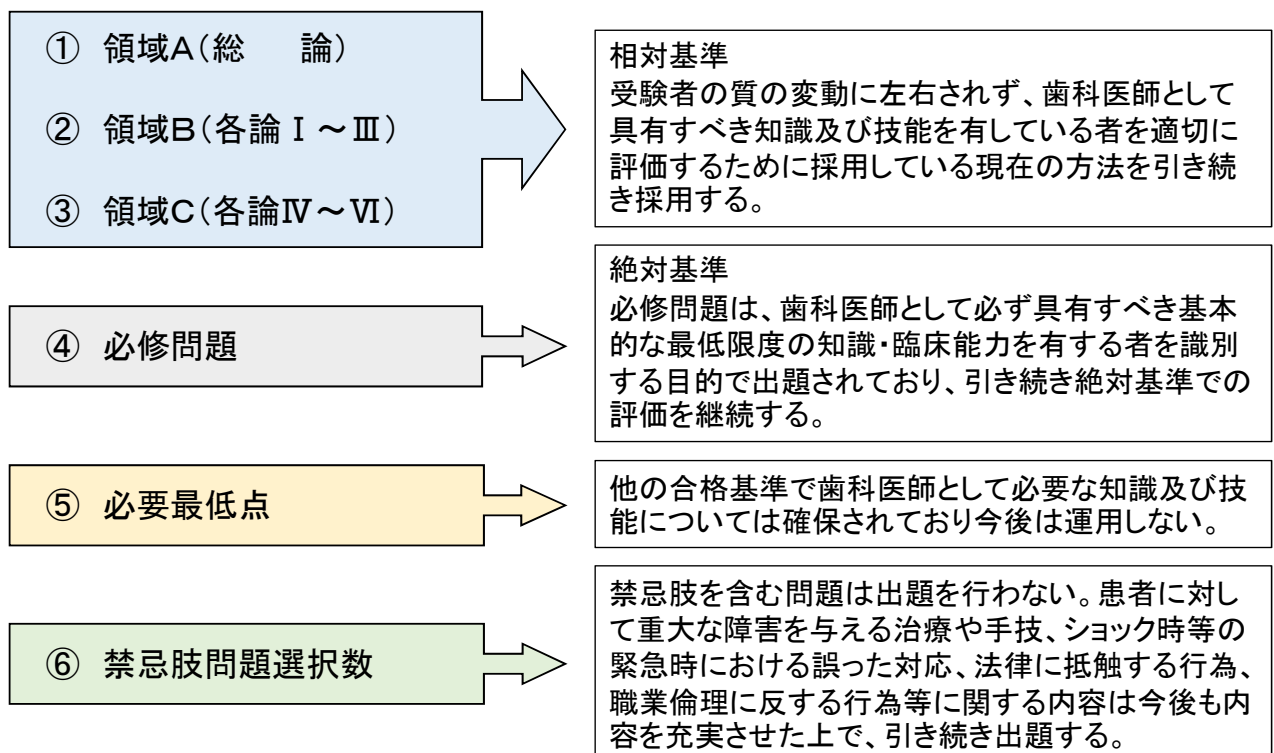
## 歯科医師国家試験の変遷

回数	79～82	83～86	87～90	91～94	95～98	99～102	103～106	107～110	111～	
年	61～H1	2～5	6～9	10～13	14～17	18～21	22～25	26～29	30～	
年間試験実施回数	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	
筆記試験の実施日数	1.5日	1.5日	2日	2日	2日	2日	2日	2日	2日	
試験内容	基礎	(臨床系学科に含まれる)		(総論に含まれる)		歯科医学・歯科保健医療総論、歯科医学・歯科保健医療各論(科目別出題の廃止)				
		臨床	学説	7科目(口腔外科、保存、補綴、矯正、口腔衛生、小児歯科、歯科放射線)	8科目(口腔外科、保存、補綴、矯正、口腔衛生、小児歯科、歯科放射線、歯科医学・医療総論)					
	実技(実地)		昭和57年に廃止、昭和58年以降は臨床実地							
	臨床実地	60問	60問	80問	100問	105問		100問		
	必修				30問	50問	70問		80問	
	計	科目	7	8	平成9年に科目別出題が廃止、平成10年以降は領域別出題					
		設問数	260問	280問	280問	330問	365問	365問		360問
試験方法	解答形式		昭和51年以降は客観的多肢選択形式を採用、105回に計算問題を採用						X3、X4、順序問題を追加	
	実技(実地)試験	口腔外科	昭和50年に廃止、昭和58年以降は臨床実地問題を採用							
		保存	昭和57年に廃止、昭和58年以降は臨床実地問題を採用							
		補綴	昭和57年に廃止、昭和58年以降は臨床実地問題を採用							
禁忌肢							平成14年より導入		廃止	

7

## 歯科医師国家試験の合格基準

一般問題(必修問題を含む)を1問1点、臨床実地問題を1問3点とし、以下の全てを満たすことが必要。



8

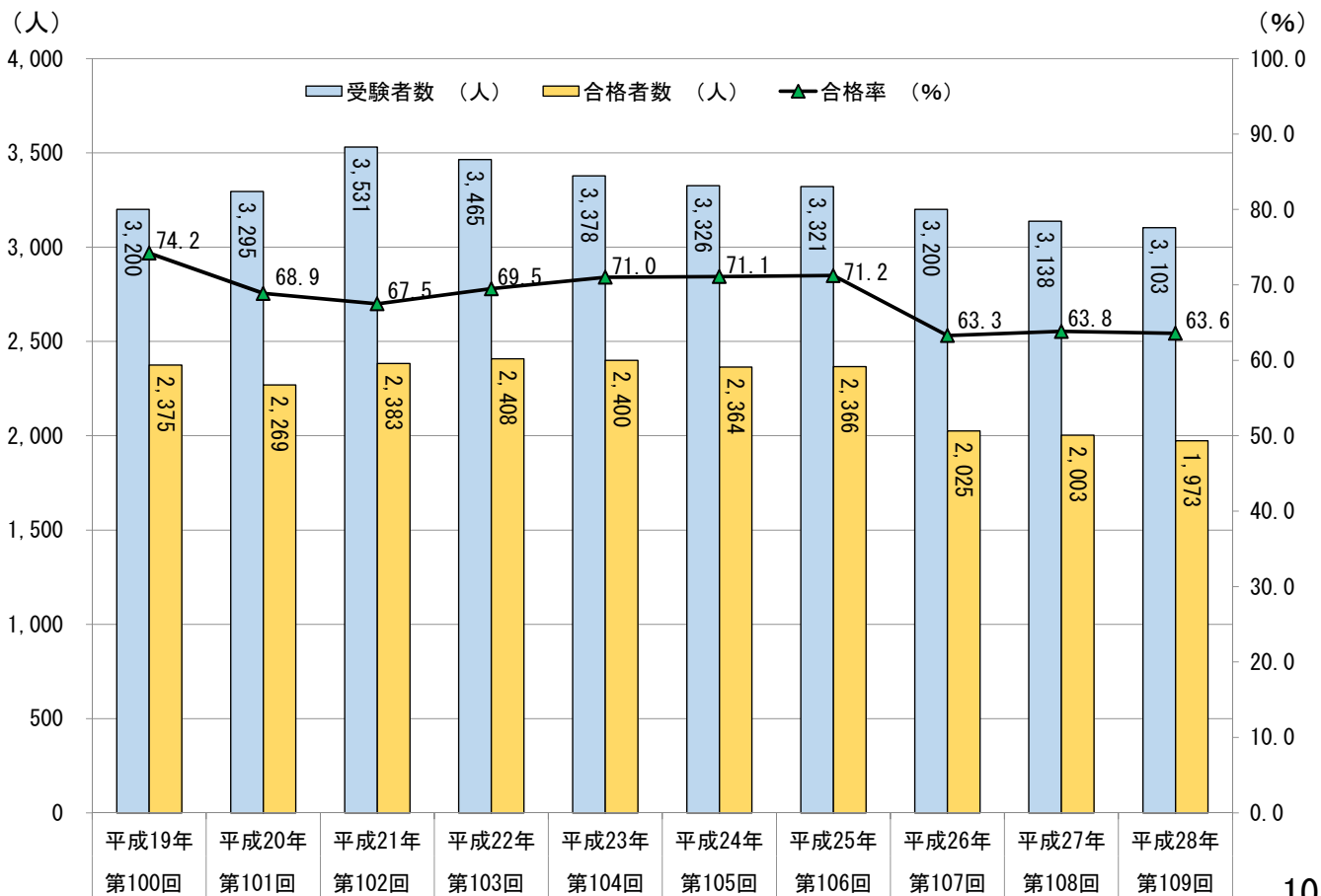
## 歯科医師国家試験 合格者数等の推移

回数	施行年月日	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
第100回	平成19年2月10～11日	3,200 ( 2,580 )	2,375 ( 2,087 )	74.2 ( 80.9 )
第101回	平成20年2月9～10日	3,295 ( 2,487 )	2,269 ( 1,948 )	68.9 ( 78.3 )
第102回	平成21年2月7～8日	3,531 ( 2,516 )	2,383 ( 1,915 )	67.5 ( 76.1 )
第103回	平成22年2月6～7日	3,465 ( 2,355 )	2,408 ( 1,921 )	69.5 ( 81.6 )
第104回	平成23年2月5～6日	3,378 ( 2,356 )	2,400 ( 1,928 )	71.0 ( 81.8 )
第105回	平成24年2月4～5日	3,326 ( 2,311 )	2,364 ( 1,882 )	71.1 ( 81.4 )
第106回	平成25年2月2～3日	3,321 ( 2,373 )	2,366 ( 1,907 )	71.2 ( 80.4 )
第107回	平成26年2月1～2日	3,200 ( 2,241 )	2,025 ( 1,642 )	63.3 ( 73.3 )
第108回	平成27年1月31日～2月1日	3,138 ( 1,995 )	2,003 ( 1,457 )	63.8 ( 73.0 )
第109回	平成28年1月30～31日	3,103 ( 1,969 )	1,973 ( 1,436 )	63.6 ( 72.9 )

※ ( ) 内は新卒者を示す

9

## 歯科医師国家試験の合格率等の推移



10

歯科医師国家試験 男女別合格者等の推移

回数		総数	男性	女性	男女別合格率 (%)	
					男性	女性
第105回 (平成24年)	受験者数(人)	3,326	2,056	1,270	68.3	75.6
	男女比(%)		(61.8)	(38.2)		
	合格者数(人)	2,364	1,404	960		
第106回 (平成25年)	受験者数(人)	3,321	2,035	1,286	68.3	75.9
	男女比(%)		(61.3)	(38.7)		
	合格者数(人)	2,366	1,390	976		
第107回 (平成26年)	受験者数(人)	3,200	1,998	1,202	59.8	69.1
	男女比(%)		(62.4)	(37.6)		
	合格者数(人)	2,025	1,194	831		
第108回 (平成27年)	受験者数(人)	3,138	1,955	1,183	58.9	72.0
	男女比(%)		(62.3)	(37.7)		
	合格者数(人)	2,003	1,151	852		
第109回 (平成28年)	受験者数(人)	3,103	1,984	1,119	59.6	70.6
	男女比(%)		(63.9)	(36.1)		
	合格者数(人)	1,973	1,183	790		
	男女比(%)		(60.0)	(40.0)		

11

第109回歯科医師国家試験 卒業年次別受験者数・合格者数・合格率

卒業年次		受験可能回数	受験者数(人)	構成比(%)	合格者数(人)	合格率(%)
新卒	平成27年4月～ 平成28年3月	1回	1,969	63.5	1,436	72.9
既卒	平成26年4月～ 平成27年3月	2回	576	18.6	361	62.7
	平成25年4月～ 平成26年3月	3回	216	7.0	113	52.3
	平成24年4月～ 平成25年3月	4回	103	3.3	38	36.9
	平成23年4月～ 平成24年3月	5回	41	1.3	9	22.0
	平成22年4月～ 平成23年3月	6回	35	1.1	4	11.4
	平成21年4月～ 平成22年3月	7回	23	0.7	2	8.7
	平成20年4月～ 平成21年3月	8回	43	1.4	3	7.0
	平成19年4月～ 平成20年3月	9回	25	0.8	3	12.0
	平成19年3月以前	10回以上	72	2.3	4	5.6
	計			1,134	36.5	537
総計			3,103	100.0	1,973	63.6

12

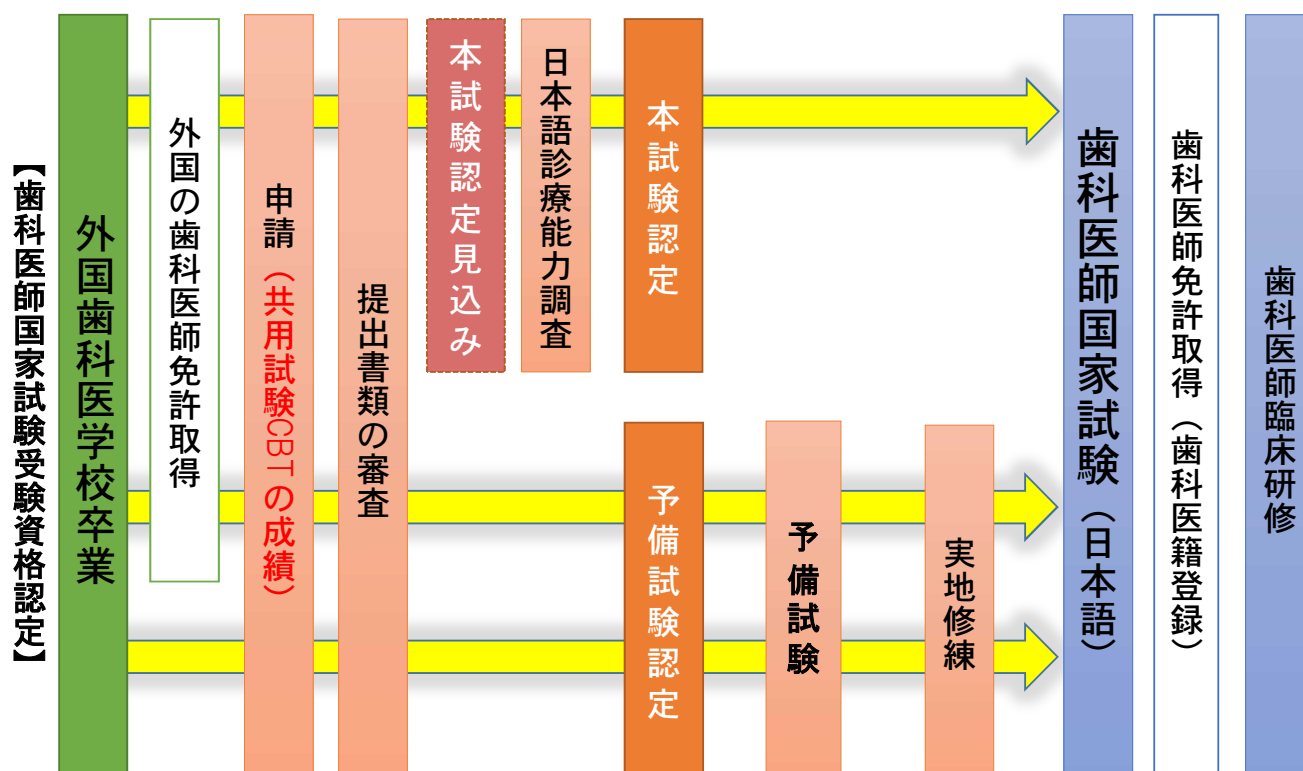
## 合格基準の禁忌肢選択数及び必要最低点の状況

患者に対して重大な障害を与える危険性のある誤った治療（診断）等の誤った知識を持った受験者を識別する目的で運用されている「禁忌肢選択数」やバランスの取れた知識・技能を持った歯科医師が求められていること等から導入された「必要最低点」の合格基準を満たさない大多数の受験者は、他の合格基準も満たしていない。

	禁忌肢選択数が合格基準を満たさなかった受験者数	必要最低点が合格基準を満たさなかった受験者数
第107回	1名 (うち、禁忌肢選択数以外の合格基準も満たさない受験者数：1名)	143名 (うち、必要最低点以外の合格基準も満たさない受験者数：122名)
第108回	1名 (うち、禁忌肢選択数以外の合格基準も満たさない受験者数：1名)	111名 (うち、必要最低点以外の合格基準も満たさない受験者数：110名)
第109回	14名 (うち、禁忌肢選択数以外の合格基準も満たさない受験者数：14名)	43名 (うち、必要最低点以外の合格基準も満たさない受験者数：43名)

13

## 外国歯科医師による日本の歯科医師免許取得の流れ



14

## 歯科医師国家試験受験資格認定の基準について

		歯科医師国家試験受験資格認定	歯科医師国家試験予備試験受験資格認定
外国歯科医学校の修業年数	歯科医学校の入学資格	高等学校卒業以上（修業年数12年以上）	
	歯科医学校の教育年限及び履修時間（大学院の修士課程、博士課程等は算入しない）	6年以上（進学課程；2年以上、専門課程；4年以上）の一貫した専門教育（4500時間以上）を受けていること。ただし、5年であっても、5500時間以上の一貫した専門教育を受けている場合には、基準を満たすものとする。	5年以上（専門課程；4年以上）であり、専門科目の履修時間が3500時間以上で、かつ一貫した専門教育を受けていること。
	歯科医学校卒業までの修業年限	18年以上	17年以上
歯科医学校卒業からの年数		10年以内（但し、歯科医学教育又は歯科医業に従事している期間は除く）	
専門科目の成績		良好であること	
教育環境		大学付属病院の状況、教員数等が日本の大学とほぼ等しいと認められること	大学付属病院の状況、教員数等が日本の大学より劣っているものではないこと
歯科医学校卒業後、当該国の歯科医師免許取得の有無		取得していること	取得していなくてもよい
日本語能力		日本の中学校及び高等学校を卒業していない者については、日本語能力試験N1（平成21年12月までの認定区分である日本語能力試験1級を含む。）の認定を受けていること	
共用試験CBTの成績		具体的な基準は医道審議会歯科医師分科会の審議を踏まえて決定する。	

15

## 歯科医師国家試験予備試験について

### ○ 試験科目

#### (1) 学説試験第一部試験

解剖学（組織学を含む。）、生理学、生化学（免疫学を含む。）、薬理学、病理学、微生物学および衛生学

#### (2) 学説試験第二部試験

口腔外科学、保存学、補綴学、矯正学および小児歯科学

#### (3) 実地試験

口腔外科学、保存学、補綴学および矯正学

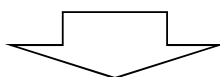
### ○ 試験内容

#### (1) 学説試験

各科目につき、多肢選択式問題20題と用語の組合せや穴埋め等の問題となっている。

#### (2) 実地試験

人工歯を用いた根管孔明示や総義歯の人工歯排列、エックス線写真・口腔内写真や歯列模型等を用いた診断や治療方針等を問う問題となっている。



歯科医師国家試験予備試験を実地試験を主体とする試験へ見直し

16



## 歯科医師国家試験受験資格認定等の状況

年度	受験資格認定の状況		予備試験の実施状況								
	本試験 認定数 (名)	予備試験 認定者数 (名)	学説試験第一部試験			学説試験第二部試験			実地試験		
			受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)
平成18年度	5	5	5	2	40.0	2	2	100.0	2	1	50.0
19	2	1	3	1	33.3	1	0	0.0	1	1	100.0
20	0	3	4	1	25.0	2	2	100.0	2	1	50.0
21	1	0	3	0	0.0	0	0	-	1	0	0.0
22	1	5	4	2	50.0	2	1	50.0	2	1	50.0
23	1	0	4	0	0.0	0	0	0.0	1	0	0.0
24	6	2	3	1	33.3	1	1	100.0	2	1	50.0
25	1	2	3	1	33.3	1	1	100.0	2	2	100.0
26	1	3	3	1	33.3	1	1	100.0	1	1	100.0
27	3	4	3	2	66.7	2	2	100.0	2	2	100.0